

2022 年度第 2 四半期決算説明資料

発表日時：2022 年 11 月 1 日（火）

出席者：代表執行役副社長 山口 裕之

常務執行役 酒井 大輔

説明資料：2022 年度第 2 四半期決算説明資料

【2022 年度第 2 四半期決算の概要】

- まず、パワーポイントのスライド 1 をご覧ください。
- 売上高は、お客さまにご負担いただいている燃料費調整制度における燃料費調整額が、燃料価格の高騰等で増加したことにより、増収となりました。
- 経常損益は、グループ全社を挙げた収支改善に努めたものの、JERA における燃料費調整制度の期ずれ影響が悪化したことや、燃料・卸電力市場価格の高騰等によるパワーグリッド・エネルギーパートナーにおける電気調達費用の増加などにより、減益となりました。
- 四半期純損益は 3 年連続の減益となりました。
- また、2022 年度業績予想につきましては、ウクライナ情勢等の影響を受け、燃料価格および販売電力量の見通しが不透明であり、具体的な業績予想をお示しできる状況にないことから、現時点で未定としております。
- なお、今期中間配当につきましては、大変申し訳なく思っておりますが、「無配」とさせていただきます、2022 年度期末についても「無配」とさせていただきます予定です。

- 具体的な連結決算の数字については、スライド 2 をご覧ください。
- 売上高は、前年同期比 58.6%増の 3 兆 5,053 億円と増収、経常損益は 3,402 億円減の 2,388 億円の損失と減益となり、特別損益を加えた親会社株主に帰属する四半期純損益は、前年同期比 2,320 億円減の 1,433 億円の損失となりました。
- なお、四半期決算の開示を行っている 2003 年度以降の第 2 四半期決算において、売上高が過去最高となる一方、経常損益は過去最大の赤字となりました。

【セグメント別のポイント】

- スライド 4 と 5 では、各セグメント別の業績とポイントをご説明いたします。

- まず、ホールディングスの業績です。
- 売上高は、卸電力販売の増加などにより、216 億円増の 2,614 億円となりました。
- 経常損益は、基幹事業会社からの受取配当金の減少などにより、前年同期比 111 億円減の 868 億円となりました。

- 次に、フュエル&パワーの業績です。
- 経常損益は、JERA における燃料費調整制度の期ずれ影響が悪化したことなどにより、前年同期比 946 億円減の 873 億円の損失となりました。

- 続いて、パワーグリッドの業績です。
- 売上高は、エリア需要の増に加え、インバランス料や他社融通、最終保障供給の増などにより、前年同期比 3,751 億円増の 1 兆 2,413 億円となりました。
- 経常損益は、減価償却費の減少があった一方、燃料価格の高騰などによる電気調達費用の大幅な増加により、前年同期比 444 億円減の 621 億円となりました。

- 続いて、エナジーパートナーの業績です。
- 売上高は、燃料費調整額の増加などにより前年同期比 9,904 億円増の 2 兆 8,282 億円となりました。
- 経常損益は、燃料・卸電力市場価格の高騰などによる電気調達費用の大幅な増加により、前年同期比 2,331 億円減の 2,273 億円の損失となりました。

- 最後に、リニューアブルパワーの業績です。
- 売上高は、卸電力販売などの増加により、前年同期比 90 億円増の 919 億円となりました。
- 経常損益についても、卸電力販売などが増加したことなどにより、84 億円増の 434 億円となりました。

- なお、セグメント別の前年同期比較資料をスライド 8 以降に参考として添付しております。

【連結特別損益の概要】

- 次に、連結特別損益についてご説明します。スライド 6 をご覧ください。

- 今期は、特別利益に、関係会社株式売却益を1,233億円計上した一方、特別損失に、原子力損害賠償費として、327億円を計上いたしました。
- これにより、特別損益は、前年同期比905億円増の905億円の利益となりました。

【連結財政状態の概要】

- 続いて、連結財政状態について、スライド7をご覧ください。
- 自己資本比率は、前年度末より0.2ポイント悪化し、24.7%となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純損益が赤字であったものの、その他の包括利益累計額の増加などにより、純資産残高が増加したことによるものです。

【結び】

- 第2四半期決算のご説明は以上となりますが、当社の経営は大変厳しい状況にあると認識しております。特に、エナジーパートナーでは、経営合理化の取り組みでは追い付かないほどの燃料・卸電力市場価格の高騰によって、費用が収入を上回り、財務基盤が急激に悪化しております。
- そのため、9月20日に特別高圧・高圧のお客さまを対象とした料金メニューの見直しを公表いたしました。その後の状況を踏まえ、低圧の料金メニューの見直しに向けた検討を行うこととしました。
- 特別高圧・高圧の料金見直しを公表した後も、燃料・卸電力市場価格の高水準が継続していることに加えて、急激に円安が進行していること等により、エナジーパートナーの収支はさらに悪化しています。
- また、特定小売供給約款、すなわち低圧の規制料金メニューにおける燃料費調整額が上限に到達し、規制料金メニューへ契約を切り替えるお客さまが増加しており、さらなる費用の増加が今後見込まれております。
- 当社といたしましては、こうした状況下においても、お客さまへの安定的な電力供給を継続するために、規制料金を含めた全ての低圧の料金メニューについて、見直しに向けた検討を行うことといたしました。検討結果につきましては、まとも次第、改めてお知らせいたします。
- 最後になりますが、こうした厳しい経営状況を踏まえ、当社は引き続き、グループ大で徹底的な合理化を進めてまいります。また、当社からお客さまへ節電のご提案・働きかけを行い、価格が高いスポット調達削減に努めて収支改善に取り組むとともに、電気料金の抑制にもつ

なげてまいります。

【参考資料（スライド8以降）、補足資料（スライド13以降）】

- スライド8以降は参考資料および補足資料です。

以 上